科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 2 6 日現在

機関番号: 62618

研究種目: 基盤研究(A)(一般)

研究期間: 2018~2021

課題番号: 18H03581

研究課題名(和文)語用論的分析のための日本語1000人自然会話コーパスの構築とその多角的研究

研究課題名 (英文) Building of a Japanese 1000 person natural conversation corpus for pragmatic analyses and its multilateral studies

研究代表者

宇佐美 まゆみ (Usami, Mayumi)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授

研究者番号:90255894

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文):本研究は,語用論的分析に適する『BTSJ』で文字化された世界最大規模の『1000人日本語自然会話コーパス』を構築することによって,語用論,コミュニケーション学の研究を促進し,その成果を日本語教育に応用することを企図した。今回,新たに動画データも追加し,514会話を収録して完成させ,共同構築型多機能データベースである『自然会話リソースバンク(NCRB)』にも本コーパスを格納して連携させ,公開した。さらに,NCRBには日本語教育用の「自然会話を素材とする教材」が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し,研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームとして完成させ,無料で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義 延べ1000人分の語用論的分析に適する『基本的な文字化の原則(BTSJ)』による文字化資料と音声データを含む 世界最大規模の『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』を完成させ,共同構築型 多機能データベース『自然会話リソースバンク(NCRB)』上での動画視聴も可能にした。約3000人以上と多くの研究者に利用され,論文発表もなされたことが,本コーパスが語用論・コミュニケーション研究の促進に貢献したことを示している。また,NCRBの「教材作成支援機能」が世界中における「自然会話を素材とする教材」の共同 構築を可能にし「研究と教育」を連関させた社会的意義も大きい。

研究成果の概要(英文): This study aims to promote research in linguistics and communication studies and apply the results to Japanese language education by constructing the world's most extensive corpus of Japanese natural conversation by 1000 speakers encoded by BTSJ, which is suitable for pragmatic analysis. This final version compiled 514 conversations, including newly added video data. In addition, this corpus was stored in and linked to the Natural Conversation Resource Bank (NCRB), a collaborative multi-functional database. Furthermore, the NCRB is equipped with a "support function for creating teaching materials "that makes it easy to create "teaching materials using natural conversations" for Japanese language education, thus having been completed a platform that can work while linking both research and education.

研究分野: 語用論 談話研究 自然会話分析 言語社会心理学

キーワード: BTSJ自然会話コーパス 語用論 自然会話分析 コミュニケーション能力養成 日本語教育 自然会話 を素材とする教材 自然会話リソースバンク ディスコース・ポライトネス理論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

- (1) 近年,自然会話コーパスを活用した「語用論的研究」,及び,その日本語教育,異文化間コミュニケーション教育への応用の需要が著しく高まっていたが,語用論的分析に必須の同時発話,割り込み,沈黙,あいづち,中途終了型発話(言いさし),フィラー,音調等の要素が記述され,且つ相互作用を示す「談話の流れ」が可視化された「語用論的分析に適したコーパス」はほとんどなかった。
- (2) また,語用論的研究は,質的分析が中心になっていたが,データを条件統制して収集することによって,量的分析も可能にし,質的分析から得られた結果の妥当性や信頼性を科学的に検証できるようにすることによって,語用論的研究の結果の信頼性を高め,語用論的研究全体の質を向上させる必要があった。
- (3) しかし,これら会話データの収集と文字化,個人情報の保護等には,膨大な時間と労力,経費を要するため,小規模コーパスを限られた集団で構築し,利用せざるを得ない状況であった。その状況を打破し,自然会話コーパスに基づく語用論的研究をより活性化していくためには,このような貴重な会話データをより多くの研究者間で共有して活用できるシステムを構築して,研究を促進することが喫緊の課題であった。

2.研究の目的

本研究の目的は,語用論とコーパス研究の融合を図るとともに,その方法論をより科学的なものにすることによって,語用論研究の質の向上を目指し,分野に貢献することである。また,自然なコミュニケーション能力の養成に関する研究を促進し,日本人のコミュニケーション能力に関する研究,及び,日本語教育に留まらない言語教育学に貢献することである。そのために,以下を行う。

- (1) 語用論的分析に適した『BTSJ 日本語自然会話コーパス』に,日本語学習者の会話,年少者の日本語会話等を追加・拡充し,多様な場面におけるシナリオのない自然会話を収録する 『BTSJ 1000 人日本語自然会話コーパス』を構築し,広く公開する。
- (2) 本コーパスの基礎統計情報を算出して特徴を明らかにするとともに,語用論的分析に必須のコーディング,分析などの方法論を確立する。
- (3) 多様な場面における自然会話の研究によって,コミュニケーション能力,異文化間コミュニケーション能力の習得過程を,理論的,実践的に分析し,自然なコミュニケーション能力を育成するための言語教育,及び,日本人の国語教育に生かす。

3.研究の方法

「コーパス班」「言語研究班」「基礎理論班」の3つの班を設け,各代表が班内でとりまとめた研究を,統括班がまとめ,相互に連携をはかりながら研究を推進した。 「コーパス班」

- (1) 既存の会話データも含め,多様化・均衡化に配慮しながら会話データを追加するとともに収録した会話データは,語用論的分析に適する『基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)』によって文字化した。
- (2) コーパスには,会話データ自体に加えて,話者の属性や話者同士の関係,会話がなされた状況の説明など,会話の背景や社会的情報についても整備した。
- (3) また,本コーパスの利用の利便性と効率的な活用方法を促進するために,「共同構築型多機能データベース」である『自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)』に本コーパスを格納して連携させた。
- (4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームを構築した。
- (5) 語用論の研究者の定量的分析を効率化し、語用論的研究を促進するためのツールである 『BTSJ 文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット (BTSJ システムセット)』を開発した。
- (6) 『BTSJ システムセット』の正確な活用を促すため,「BTSJ システムセット活用方法講習会」を複数回開催した。加えて,「総合的会話分析の方法論」についても講習会を行い,コーディング方法などの指導と普及に努めた。

「言語研究班」

- (1)「日本語会話の総合的考察」として,本コーパスのデータを用いて,日本語の母語話者,非母語話者の会話の丁寧体率などを,定量的・定性的双方の観点から多角的に分析・考察した。
- (2)対照研究も交えて日本語自然会話を多角的に分析することによって,談話行動・異文化間コミュニケーションのメカニズムとそれを日本語教育に生かす方法を検討した。
- (3) 共同構築型多機能データベースである『自然会話リソースバンク (NCRB)』に本コーパスを 格納して連携させ、その中のいくつかのデータを教材化した。

(4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームを構築した。

「基礎理論班」

(1) この班は、「ディスコース・ポライトネス理論」、「雑談対話システムのモデル構築」等、世界的にも独創的・先駆的な研究に携わっている研究者を中心に、コーパスのデータを活用しながら、基礎理論の検証と新たなモデル構築を行った。

4. 研究成果

「コーパス班」

- (1) 最終的に,語用論的分析に適する『基本的な文字化の原則(BTSJ)』による文字化資料と音声データを収録した世界最大規模の『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動版)』(延べ1000人分の514会話,約127時間)を完成させ,無料で公開した。(https://isplad.ip/lab/btsi_corpus_2023/)
- (2) コーパスには、会話データ自体に加えて、話者の属性や話者同士の関係、会話収集の条件など、会話の背景や社会的情報についても整備し、会話情報シートも同梱し、公開した。(ダウンロード形式で配布)コーパス申込み (https://isplad.jp/form/corpus/index.html)
- (3) また,公開された本コーパスの利用の利便性と効率的な活用方法を促進するために,「共同構築型多機能データベース」である『自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)』に本コーパスを格納して連携させ,NCRB上で「動画」も公開した。

NCRB の説明 (https://isplad.jp/lab/ncrb/)
NCRB へのアクセス (https://ncrb.jp/)

- (4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームとして完成させ、無料でオンライン公開した。(https://ncrb.jp/)
- (5) 語用論の研究者の定量的分析を効率化し,語用論的研究を促進するためのツールである 『BTSJ 文字化入力支援・自動集計・複数ファイル自動集計システムセット (BTSJ システムセット)』を開発した。(https://isplad.jp/lab/about_btsj-btsj_system_set/)
- (6) 『BTSJ システムセット』の正確な活用を促すため、「BTSJ システムセット活用方法講習会」を開催し、参加者に『BTSJ システムセット』を無料で配布した。また、「総合的会話分析の方法論」についても講習会を行い、コーディング方法などの指導と普及に努めた。 (https://isplad.jp/lab/seminar/btsj_tutorial/)
- (7) 利用希望者が,講習会に対面参加できなくても『BTSJシステムセット』を受領できるよう,「BTSJシステムセット活用方法講習会」の「オンラインチュートリアル版」を HP 上に作成し,チュートリアル修了者全員が受領できるようにした。

(https://isplad.jp/btsj tutorial/online lesson/)

「言語研究班」

- (1)「日本語会話の総合的考察」として,本コーパスを対象として,日本語の母語話者,非母語話者の会話の丁寧体率などを,定量的・定性的双方の観点から多角的に分析した。(業績リスト参照)
- (2)対照研究も交えて日本語自然会話を多角的に分析することによって,談話行動・異文化間コミュニケーションのメカニズムとそれを日本語教育に生かす方法を検討した。(業績リスト参照)
- (3) 共同構築型多機能データベースである『自然会話リソースバンク (NCRB)』に本コーパスを 格納して BTSJ コーパスと NCRB を連携させた。(https://ncrb.jp/)「自然会話を使った研究」
- (4) NCRB には日本語教育用の『自然会話を素材とする教材』が簡単に作成できる「教材作成支援機能」を搭載し、研究と教育の双方を連携させながら運用できるプラットフォームを構築した。(https://ncrb.jp/)「自然会話を素材とする研究」

「基礎理論班」

この班は,「ディスコース・ポライトネス理論」,「雑談対話システムのモデル構築」等,世界的にも独創的・先駆的な研究に携わっている研究者を中心に,コーパスのデータを活用しながら,基礎理論の検証と新たなモデル構築を行った。(業績リスト参照)

<参考文献>

宇佐美まゆみ (2020)「語用論的分析に適した『基本的な文字化の原則(BTSJ)』開発の背景とその特徴」宇佐美まゆみ編『自然会話分析への語用論的アプローチーBTSJ コーパスを利用してー』ひつじ書房. 1-16.

Usami, Mayumi. (2021) 「教材作成支援機能を持つ共同構築型 WEB 教材 - NCRB (Natural Conversation Resource Bank) の展開 - 」In Arun Shyam. (ed.)

Japanese Language Education in South Asia - Issues and Challenges-. Hyderabad: The English and Foreign Languages University Press: 252-272.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件(うち査読付論文 28件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 13件)

| 1 . 著者名 | 4.巻 |
|--|------------------|
| 宇佐美まゆみ | 1 |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| 自然会話を素材とする共同構築型Web教材NCRB-自然会話データの分析を踏まえて | 2022年 |
| 3.雑誌名 | 6 . 最初と最後の頁 |
| 日本語プロフィシェンシー研究の広がり | 209-221 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 |
| | |
| 1 . 著者名 | 4.巻 |
| Mayumi Usami | 8 |
| 2.論文標題 Intersection of discourse politeness theory and interpersonal communication". Handbook of Japanese Sociolinguistics | 5 . 発行年 2022年 |
| 3.雑誌名 | 6 . 最初と最後の頁 |
| Handbook of Japanese Sociolinguistics | 355-386 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| 10.1515/9781501501470-013 | 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 |
| | |
| 1 . 著者名 | 4 .巻 |
| 宇佐美まゆみ・張未未 | 9 |
| 2 . 論文標題 | 5 . 発行年 |
| 観光接触場面における日本語インタラクションーロシア人留学生の宿泊場面を例に一 | 2022年 |
| 3.雑誌名 | 6 . 最初と最後の頁 |
| 東海大学大学院日本語教育学論集 | 1-16 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 |
| | |
| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | 1 |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| はじめに | 2020年 |
| 3.雑誌名 | 6 . 最初と最後の頁 |
| 宇佐美まゆみ(編)『日本語の自然会話分析ーBTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろしお出版 | v-xx . |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |

| 1.著者名 | 4 . 巻 |
|--|------------|
| 宇佐美まゆみ | 1 |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| 第1章 語用論的分析に適した『BTSJ日本語自然会話コーパス』構築の趣旨と特徴 | 2020年 |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 宇佐美まゆみ(編)『日本語の自然会話分析ーBTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろし | 1-19. |
| お出版 | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| 1. 著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | 1 |
| 2 . 論文標題 | 5.発行年 |
| 教材作成支援機能を持つ共同構築型 WEB 教材 - NCRB(Natural Conversation Resource Bank)の展開 - | 2020年 |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| Arun Shyam. (Ed.). (December 2020). Japanese Language Education in South Asia – Issues and Challenges–. Hyderabad: The English and Foreign Languages University Press. | 252-272. |
| 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | 21-2 |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| 相手とのちょうどいい距離感を掴む ディスコース・ポライトネス理論 (特集:アサーションをはじめよう・コミュニケーションの多元的世界へ) | 2021年 |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 臨床心理学 | 196-202. |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ・張未未 | 1 |
| 2 . 論文標題 | 5 . 発行年 |
| 日中接触場面の雑談における母語話者と非母語話者による「バランスをとるための笑い」の分析 - 『BTSJ 日本語自然会話コーパス(2020年版)』を用いて - | 2020年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| - · · · · · · · · | 301-314. |
| 言語資源活用ワークショップ発表論文集 | 301-314. |
| 言語資源活用ワークショップ発表論文集 | |
| | 査読の有無 有 |
| 言語資源活用ワークショップ発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |

| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
|--|-------------------|
| 東中竜一郎,船越孝太郎,稲葉通将,角森唯子,高橋哲朗,赤間怜奈,宇佐美まゆみ,川端良子,水上雅博 | 35 |
| 2 . 論文標題 | 5 . 発行年 |
| | _ |
| 対話システムライブコンペティションから何が得られたか ———————————————————————————————————— | 2020年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 人工知能学会誌 | 333-343. |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 大塚容子 | 1 |
| 八亦口」 | · |
| 2 . 論文標題 | 5 . 発行年 |
| 自然会話における感動詞「あっ」の機能 - 日本語教育の観点から | 2020年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 宇佐美まゆみ(編)『日本語の自然会話分析ーBTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろし | 139-160 . |
| お出版 | |
| 曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| i − プンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 当你不 有 - |
| | |
| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
| Miyamoto Tomoki, Katagami Daisuke, Shigemitsu Yuka, Usami Mayumi, Tanaka Takahiro, Kanamori | 12 |
| Hitoshi, Yoshihara Yuki, Fujikake Kazuhiro | |
| 2 . 論文標題 | 5 . 発行年 |
| Influence of Social Distance Expressed by Driving Support Agent's Utterance on Psychological | 2021年 |
| Acceptability | • |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| Frontiers in Psychology | 1-14. |
| , , , , | |
| 載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| 10.3389/fpsyg.2021.526942 | 無 |
| ナープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスとしている(また、その予定である) | - |
| . 著者名 | |
| 7.看有有 石川慎一郎 | 4 · 含 1 |
| TH/THR NP | • |
| 2. 論文標題 | 5 . 発行年 |
| 第1章 コーパス研究の展開 | 2020年 |
| The state of the s | , |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| コーパス研究の展望 | 1-44. |
| | |
| 弱載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 無無 |
| すープンアクセス | 国際仕事 |
| オーノンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 |
| ク フファフヒヘ Clada V 、 スはク ニフファフヒヘル 凹地 | |

| 1 . 著者名 重光由加 | 4 . 巻 |
|--|--|
| 2 . 論文標題 | |
| ····· | 1 |
| ····· | F 整仁左 |
| 算問行為に住つ配慮・初対面会話と親しい者同士の男性の継談より・ | 5.発行年 |
| Control of the Contro | 2020年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| | |
| 宇佐美まゆみ(編)『日本語の自然会話分析ーBTSJコーパスから見たコミュニケーションの解明』くろ | し 85-111. |
| お出版 | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | |
| なし | 有 |
| 4 U | THE STATE OF THE S |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| 3 DDD CACIONOVA AIRS DDDD CANDER | |
| | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | |
| 1 12 2 3 7 0 1 | |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| ン・調える場合 対話システム研究と談話研究の接点 言語研究から貢献できることは | 2019年 |
| とはは、こ、「とこの「これはこと」とは、これになって、日本は、この、この、この、この、この、この、この、この、この、この、この、この、この、 | 20.01 |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集 | 27 - 28 |
| | |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| | |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| | <u> </u> |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | 204(5) |
| | |
| | |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能 | |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶 訳) | 2019年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 | |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶 訳) | 2019年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 | 2019年 6.最初と最後の頁 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶 訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 | 2019年 6 . 最初と最後の頁 23-34 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶 訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶 訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 | 2019年 6 . 最初と最後の頁 23-34 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 4.巻 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 3.雑誌名 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 3.雑誌名 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 3.雑誌名 日本語学会2019年度秋季大会予稿集 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 207-210 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 3.雑誌名 日本語学会2019年度秋季大会予稿集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 207-210 査読の有無 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3.雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 宇佐美まゆみ 2.論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 3.雑誌名 日本語学会2019年度秋季大会予稿集 | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 207-210 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3 . 雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 宇佐美まゆみ 2 . 論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析 3 . 雑誌名 日本語学会2019年度秋季大会予稿集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 207-210 査読の有無 有 |
| 21世紀礼貌現象研究的可能性 話語礼貌理論的新発展 (原文 「21世紀のポライトネス理論研究の可能性ーディスコース・ポライトネス理論の新展開ー」(李瑶訳) 3 . 雑誌名 日語学習与研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 宇佐美まゆみ 2 . 論文標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 3 . 雑誌名 日本語学会2019年度秋季大会予稿集 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) | 2019年 6.最初と最後の頁 23-34 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 207-210 査読の有無 |

| 1.著者名 | |
|---|--|
| , 看有看 | 4 . 巻 |
| 陳朝陽,宇佐美まゆみ | 36(11) |
| 184518 / 1 12×65/9 0/ | , |
| 2. 公立情報 | F 整仁在 |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| 基于語料庫的日語母語者的反駁言語策略研究 | 2019年 |
| | |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| | |
| Journal of Hubei University of Education | 7-10 |
| | |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| αU | 有 |
| 40 | FF FF |
| | C and II de |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 該当する |
| | |
| 1 \$2.67 | 1 * |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | - |
| | |
| | 5 . 発行年 |
| ····· | |
| なぜ自然会話を素材とするWeb教材が言語と文化の教育に最適なのか? 21世紀の教材のあり方 | 2019年 |
| | |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 第23回AJEヨーロッパ日本語教育シンポジウム要旨集 | 62-62 |
| カルンログ・リー ロッハロヤロが日ック・ハックラングでは、 | 02-02 |
| | |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| | |
| | |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスとしている(また、その予定である) | - |
| | <u> </u> |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| | |
| 陳朝陽,宇佐美まゆみ | - |
| | |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| 『BTSJ日本語自然会話コーパス』における反論ストラテジーの分析 | 2019年 |
| | 20194 |
| | |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| | 054 057 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 | 251 - 257 |
| ** **= * * | 251-257 |
| ** **= * * | 251-25/ |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 | |
| ** **= * * | 251-257 査読の有無 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 | |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無有 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス | 査読の有無 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無有 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス | 査読の有無有 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 査読の有無 有 国際共著 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 査読の有無 有 国際共著 - |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 査読の有無 有 国際共著 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹, 片上大輔, 重光由加, 宇佐美まゆみ, 田中貴紘, 金森等, 吉原佑器, 藤掛和広 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 査読の有無 有 国際共著 - |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹, 片上大輔, 重光由加, 宇佐美まゆみ, 田中貴紘, 金森等, 吉原佑器, 藤掛和広 2 . 論文標題 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹, 片上大輔, 重光由加, 宇佐美まゆみ, 田中貴紘, 金森等, 吉原佑器, 藤掛和広 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹, 片上大輔, 重光由加, 宇佐美まゆみ, 田中貴紘, 金森等, 吉原佑器, 藤掛和広 2 . 論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 宮本友樹,片上大輔,重光由加,宇佐美まゆみ,田中貴紘,金森等,吉原佑器,藤掛和広 2.論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 3.雑誌名 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 宮本友樹,片上大輔,重光由加,宇佐美まゆみ,田中貴紘,金森等,吉原佑器,藤掛和広 2.論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 宮本友樹,片上大輔,重光由加,宇佐美まゆみ,田中貴紘,金森等,吉原佑器,藤掛和広 2.論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 3.雑誌名 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 宮本友樹,片上大輔,重光由加,宇佐美まゆみ,田中貴紘,金森等,吉原佑器,藤掛和広 2.論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 3.雑誌名 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹,片上大輔,重光由加,宇佐美まゆみ,田中貴紘,金森等,吉原佑器,藤掛和広 2 . 論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 3 . 雑誌名 知能と情報 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 739 - 744 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 739 - 744 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹,片上大輔,重光由加,宇佐美まゆみ,田中貴紘,金森等,吉原佑器,藤掛和広 2 . 論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 3 . 雑誌名 知能と情報 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 739 - 744 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 739 - 744 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 宮本友樹 , 片上大輔 , 重光由加 , 宇佐美まゆみ , 田中貴紘 , 金森等 , 吉原佑器 , 藤掛和広 2 . 論文標題 ポライトネス理論に基づく運転支援エージェントにおける発話の文末スタイルに着目した印象評価 3 . 雑誌名 知能と情報 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3156/jsoft.31.3_739 | 査読の有無 国際共著 4.巻 31(3) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 739-744 査読の有無 有 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 31(3) 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 739 - 744 |
| 言語資源活用ワークショップ2019発表論文集 | 査読の有無 国際共著 4.巻 31(3) 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 739-744 査読の有無 有 |

| 1.著者名 | 4 . 巻 |
|--|-----------------------|
| 東中竜一郎,船越孝太郎,稲葉通将,角森唯子,高橋哲朗,赤間怜奈,宇佐美まゆみ,川端良子,水上雅 | - |
| 博 | 5 38/= / T |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| 対話システムライブコンペティション2 | 2019年 |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 言語・音声理解と対話処理研究会研究会資料 | 42 - 49 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスとしている(また、その予定である) | - |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| | 435 |
| 다. 다 | |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| 日本語自然対話における丁寧体否定形「ナイデス」「マセン」の選択 BTSJコーパスを用いた検証 | 2020年 |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 統計数理研究所共同研究リポート | 1-18 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | |
| なし | 有 |
| + | |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 |
| | |
| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
| | 32 |
| 永井 望,宮本 友樹,片上 大輔 | |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| Seq2Seqモデルを用いた文末表現の異なる対話システムの評価 | 2020年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 知能と情報 | 523-527 |
| 7-8-8-0 C 18-1K | 020 02. |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| 10.3156/jsoft.32.1_523 | 有 |
| ナープンフクセフ | 〒欧井笠 |
| オーブンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 |
| | |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ・山崎誠 | - |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| | 2018年 |
| 『BTSJ日本語自然会話コーパス(トランスクリプト・音声)2018年版』の紹介と『BTSJ文字化入力支援・ 自動集計・複数ファイル自動集計システムセット』を用いた分析法 | 2010 ' |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 計量国語学会第62回大会予稿集 | 1-6 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| and the second of the second o | 1 |

| 1 . 著者名 | 4.巻 |
|--|---------------------------------------|
| 宇佐美まゆみ・山崎誠 | - |
| 2.論文標題 | 5 ※行生 |
| 2.調又信題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』における一人称・二人称代名詞の使用実態 | 5.発行年 2018年 |
| - 5137日本語自然云記コーバス2016年版』にのける一人称・二人称に名詞の使用夫態 | 2018年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 日本語学会2018年度秋季大会予稿集 | 221-226 |
| HITTHE J SHOULD INTO THE PROPERTY OF THE PROPE | |
| | |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアッセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |
| 3 フンティ Cハ Clorov 、 人は3 フンティ Cハル 四年 | |
| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
| 宇佐美まゆみ | 23 |
| | |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| 談話研究と言語教育 1960年代から現在までの流れ | 2019年 |
| つ かきナタ | 6 見知に目後の五 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| ヨーロッパ日本語教育第23号 | 194-205 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| な し | 有 |
| | |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| 1 . 著者名 | 4.巻 |
| ・ 名句句 宇佐美まゆみ | 4 . 全 23 |
| 1 ITV0.4 A | |
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| 『総合的会話分析』に基づく研究 『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話リソースバンク | 2019年 |
| (NCRB)』との連携に触れながら | |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| ヨーロッパ日本語教育第23号 | 206-221 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| | |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | - |
| | |
| 1. 著者名 | 4.巻 |
| 小沢一仁、重光由加 | 41(2) |
| 2 於文輝區 | 5 発行生 |
| 2. 論文標題 授業現場における質問と発問の違い - 語用論と心理学の視点から - | 5 . 発行年 2018年 |
| 12未坑物にの17 0貝回C光回のほり: 品用調C心生子の侃点から: | 2010-1 |
| | 6.最初と最後の頁 |
| 3.雑誌名 | |
| | |
| 3.雑誌名 東京工芸大学紀要 | 1-7 |
| 東京工芸大学紀要 | 1-7 |
| 東京工芸大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 1-7 査読の有無 |
| 東京工芸大学紀要 | 1-7 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 1-7 査読の有無 無 |
| 東京工芸大学紀要 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 1-7 査読の有無 |

| 1.著者名 | |
|--|---|
| = : : : : | 4 . 巻 |
| 宮本友樹、片上大輔、重光由加、宇佐美まゆみ、田中貴紘、金森等 | 30(5) |
| 2.論文標題 | F 発仁生 |
| 2 · 調又信題 | 5 . 発行年 2018年 |
| ホライドネス・ストラデシーに基づく云語エージェフトの言語的な派る舞いの違いが入るの関係性構築に もたらす効果 ~ 初対面における冗談の心理効果 ~ | 2018年 |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 日本知能情報ファジー学会 | 653-765 |
| 口平和肥頂牧ノアン一子云 | 003-700 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| | |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスとしている(また、その予定である) | - |
| | |
| 1 . 著者名 | 4 . 巻 |
| 重光由加 | 41(2) |
| 2 . 論文標題 | |
| 2. 調文信題 インドの言語環境とELF使用場面から見る英語コミュニケーション能力 インド人と日本人のビジネス・ | 3 . 光1]年 2018年 |
| 1フトの言語環境とELF使用場面から見る英語コミュニケーション能力 1フト人と日本人のピンネス・ パーソンへの座談会から | 2010 ' |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 東京工芸大学紀要 | 26-35 |
| | |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 無 |
| オープンアクセス | |
| オープンテラセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 四际共 有 |
| オープンテクセスとしている(また、との子だてある) | - |
| 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 重光由加 | 25 |
| ᆂᄼᅛᄥᄱ | 20 |
| 2 . 論文標題 | 5.発行年 |
| 聞き手による会話の修復とラポール: 談話分析的アプローチによるELF接触場面のケース・スタディ | 2019年 |
| | |
| 3 . 雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| | 838-841 |
| 言語処理学会第25回年次大会発表論文集 | 000 01. |
| 言語処理字会第25回年次大会発表論文集 | 000 0 |
| | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| 言語処理字会第25回年次大会発表論文集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス | 査読の有無 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 査読の有無 有 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス | 査読の有無 有 国際共著 - |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 | 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2 . 論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指して一 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2.論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指して一 3.雑誌名 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2.論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指して一 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2.論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指して一 3.雑誌名 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2.論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指してー 3.雑誌名 教育システム情報学会第43回全国大会講演論文集 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 401-402 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2 . 論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指してー 3 . 雑誌名 教育システム情報学会第43回全国大会講演論文集 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 401-402 査読の有無 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2 . 論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指してー 3 . 雑誌名 教育システム情報学会第43回全国大会講演論文集 | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 401-402 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 2 . 論文標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指してー 3 . 雑誌名 教育システム情報学会第43回全国大会講演論文集 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) | 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 43 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 401-402 査読の有無 |

| 1.著者名 大塚容子、宇佐美まゆみ、伊藤敏 | 4 . 巻 25 |
|--|-------------|
| 2.論文標題 | 5.発行年 |
| 動画からうなずきの半自動検出と談話研究への応用 | 2019年 |
| 3.雑誌名 | 6 . 最初と最後の頁 |
| 言語処理学会第25回年次大会発表論文集 | 868-871 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| なし | 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 |

| | 1 |
|---|-----------|
| │ 1.著者名 | 4 . 巻 |
| 石川慎一郎 | 414 |
| | 414 |
| | |
| 2.論文標題 | 5 . 発行年 |
| | |
| 現代日本語発話における男女話者による文末詞の使用 BTSJコーパスを用いた大学生発話の計量分析 | 2019年 |
| | |
| 3.雑誌名 | 6.最初と最後の頁 |
| 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 | |
| 統計数理研究所共同研究リポート | 1-28 |
| | |
| | |
| | |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) | 査読の有無 |
| | |
| なし | 無 |
| | |
| オープンアクセス | 国際共著 |
| オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | |
| オープンテクと人にはない、又はオープンアクと人が困難 | - |

〔学会発表〕 計66件(うち招待講演 9件/うち国際学会 15件)

1.発表者名

Mayumi Usami

2 . 発表標題

The concepts of 'time' and 'face credit' in discourse politeness theory: New perspectives on politeness behavior between acquaintances

3 . 学会等名

9th International Symposium on Intercultural, Cognitive and Social Pragmatics (EPICS). (国際学会)

4.発表年

2020年

1 . 発表者名 宇佐美まゆみ

2.発表標題 視点としての「(日本語教育)学」という捉え方の必然性 」,パネルセッション (企画:宇佐美まゆみ)「21世紀の日本語教育学を考える 視点としての「学」という観点から・

3 . 学会等名

2020年度日本語教育学会春季大会

4 . 発表年

2020年

| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ・張未未 |
|--|
| 2.発表標題 雑談における日本語学習者による不自然な終助詞「ね」,「よ」,「よね」 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』を用いて |
| 3.学会等名 国立国語研究所第210回NINJALサロン |
| 4 . 発表年 2020年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ・張未未 |
| 2 . 発表標題 雑談における母語話者と非母語話者の笑いの使用傾向の分析:『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』 を用いて |
| 3 . 学会等名 日本語学会2020年度春季大会 |
| 4 . 発表年 2020年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2. 発表標題 BTSJ日本語自然会話コーパスと自然会話を素材とするWEB教材NCRB (Natural Conversation Resource Bank)-その活用法- |
| 3 . 学会等名 早稲田大学日本語教育研究科小林ミナ研究室主催(ゲストセッション)(招待講演) |
| 4 . 発表年 2020年 |
| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 自然会話リソースパンク(NCRB)と自然会話を素材とする教材の活用法 - デモンストレーションを交えて - |
| 3. 学会等名 オーストリア日本語教師会 第51回定例勉強会(招待講演) |
| 4 . 発表年 2020年 |
| |

| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
|--|
| Ţ⅊ ᄎ ℴℽℴ |
| |
| 2 . 発表標題 |
| 2 . |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| オーストリア日本語教師会 第51回定例勉強会(招待講演) |
| A 改丰左 |
| 4 . 発表年 2020年 |
| |
| 1 . 発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 『PTS (日本語自然会託コーパス (2020年版) - の特徴と活用法。「コナルダの音味、と「会託データ情報一覧シート・を中心に |
| 『BTSJ日本語自然会話コーパス (2020年版)』の特徴と活用法 - 「フォルダの意味」と「会話データ情報一覧シート」を中心に- |
| |
| 2 |
| 3 . 学会等名 シンポジウム「日本語教育は、自然会話コーパスで変わる! - 『BTSJ日本語自然会話コーパス』の特徴と日本語教育への生かし方-」 |
| |
| 4. 発表年 |
| 2020年 |
| 1.発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| 日本語の自然会話とディスコース・ポライトネス理論 |
| |
| |
| 3 . 学会等名 |
| 第39回NINJALチュートリアル |
| 4.発表年 |
| 2021年 |
| |
| 1. 発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2 . 発表標題 対話システムと日本語教育の関係とは? |
| カロノステムに日平田牧月VI対所には: |
| |
| 3.学会等名 |
| 3 . 子会寺名 令和2年度国立国語研究所日本語教師セミナー |
| |
| 4. 発表年 |
| 2021年 |
| |
| |
| |
| |

| 1 . 発表者名 |
|---|
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| 人間同士の自然会話分析への多角的アプローチ - 総合的会話分析と対話データの自動処理 - |
| |
| |
| 3 . 学会等名 |
| 第91回 言語・音声理解と対話処理研究会(招待講演) |
| 4.発表年 |
| 2021年 |
| |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ・張未未 |
| 子性夫の後の主張不不 |
| |
| 2.発表標題 |
| 2 · 光や保護 観光接触場面における日本語インタラクション - ロシア人留学生の宿泊場面を例に |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 多言語社会と言語問題シンポジウム2020 |
| |
| 4. 発表年 |
| 2021年 |
| 1.発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| 『BTSJ日本語自然会話コーパス』の開発の趣旨と特徴ーNCRBとの連携 |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 第4回会話・談話研究シンポジウム「『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話を素材とする共同構築型WEB教材NCRB』の展開 |
| 4.発表年 |
| 2021年 |
| |
| 1. 発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2 . 発表標題 自然会話リソースバンク(Natural Conversation Resource Bank: NCRB)」構築の趣旨 |
| 日派云ロップ スパンツ (Matural Conversation Resource Dank, MCRD) 1 情采の歴日 |
| |
| 2 |
| 3.学会等名 第4回会話・談話研究シンポジウム「『BTSJ日本語自然会話コーパス』と『自然会話を素材とする共同構築型WEB教材NCRB』の展開」 |
| みずは以前 |
| 4. 発表年 |
| 2021年 |
| |
| |
| |
| |
| |

| 1 . 発表者名 片上大輔,山本隆太郎,宮本友樹,宇佐美まゆみ |
|--|
| 2 . 発表標題 対話型擬人化エージェントの言語的配慮に対する受容性の異文化比較に関する研究 - クラウドソーシングによる大規模印象調査 - |
| 3 . 学会等名 HAIシンポジウム2021 |
| 4.発表年 2021年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 間接発話理解のプロセスの解明がなぜ重要なのか 本公募研究の趣旨に代えて |
| 3 . 学会等名 「日本語の間接発話理解 : 第一言語 , 第二言語 , 人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究」研究発表会 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 「日本語の間接発話理解」研究の方法論的問題点について : 第一言語習得と第二言語習得の比較研究を例として |
| 3.学会等名 「日本語の間接発話理解 : 第一言語,第二言語,人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究」研究発表会 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1 . 発表者名 Mayumi Usami |
| 2 . 発表標題 Universality vs. culture specificity in politeness from the viewpoints of discourse politeness theory and Language Education |
| 3 . 学会等名 9th Annual Conference on Foreign Language Teaching and Applied Linguistics(国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |
| |

| 1 . 発表者名 重光由加,宇佐美まゆみ |
|---|
| 2 . 発表標題 インドの観光コミュニケーション会話の収集とその活用法 |
| 3 . 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1 . 発表者名 Tomoki Miyamoto, Daisuke Katagami, Yuka Shigemitsu, Mayumi Usami, Takahiro Tanaka, Hitoshi Kanamori, Yuki Yoshihara, Kazuhiro Fujikake |
| 2 . 発表標題 Proposal of Driving Support Agent which Speak Based on Politeness Theory |
| 3 . 学会等名 International Conference on Human-Computer Interaction 2019 (国際学会) |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1 . 発表者名 陳朝陽 , 宇佐美まゆみ |
| 2.発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス』における反論ストラテジーの分析 |
| 3 . 学会等名 言語資源活用ワークショップ 2019 |
| 4.発表年 2019年 |
| 1.発表者名 重光由加,大塚容子,宇佐美まゆみ |
| 2.発表標題日本語学習者の間接発話の習得:質問紙調査報告(2) |
| 3 . 学会等名 日本語の間接発話理解:第一言語、第二言語、人工知能における習得メカニズムの認知科学的比較研究シンポジウム |
| 4 . 発表年 2019年 |

| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
|--|
| |
| 2 . 発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」,「よ」,「よね」の使用実態の分析 |
| |
| 3.学会等名 日本語学会2019年度秋季大会 |
| 4.発表年 |
| 2019年 |
| |
| 1.発表者名 |
| Mayumi Usami |
| |
| |
| 2 . 発表標題 |
| New version of Discourse Politeness Theory: Focusing on the concepts of "face-balance principle" and "time sequence" |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 2019 New Zealand Linguistic Society conference (国際学会) |
| |
| 4.発表年 |
| 2019年 |
| 1.発表者名 |
| I. 完衣有名 Iori Kasahara, Mayumi Usami, and Minoru Karasawa |
| TOTT NASAHATA, WAYUHT USAHT, ANU WITHOTU NATASAWA |
| |
| |
| 2.発表標題 Reserved British Foreign British Briti |
| Stereotype Priming Effects on Language Use: Applying Morphological Analysis on Conversational Data |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 2020 Society for Personality and Social Psychology Convention(国際学会) |
| A ひまた |
| 4 . 発表年 2020年 |
| 4V2VT |
| 1.発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| 2. 光衣信題 視点としての「(日本語教育)学」という捉え方の必然性 |
| NOW COCO (H.L.HHIVE) 1 1 CA. NIVERII ANDWIT |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 2020年度 日本語教育学会春季大会 |
| 4 . 発表年 |
| 2020年 |
| |
| |
| |

| 1.発表者名 |
|--|
| 1 : 光衣有名 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| ・ 注意では 雑談における母語話者と非母語話者の笑いの使用傾向の分析:『BTSJ日本語自然会話コーパス2018年版』 を用いて |
| |
| |
| |
| 3 · 牙公号 1 |
| |
| 4. 発表年 |
| 2020年 |
| 1.発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| ディスコース・ポライトネス理論の新たな展開 |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 東海大学文学部研究会FD講演会(招待講演) |
| |
| 4 . 発表年 |
| 2019年 |
| 1.発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| |
| 日本語の自然会話とディスコース・ポライトネス理論 |
| |
| |
| 3.学会等名 |
| 第33回 NINJALチュートリアル |
| |
| 4 . 発表年 |
| 2019年 |
| 1.発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| |
| |
| 2.発表標題 |
| 語用論的分析に適したコーパスとは? |
| |
| |
| |
| 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 |
| |
| 4 . 発表年 |
| 2019年 |
| |
| |
| |
| |

| 『6TSJ自然会話コーバス』の全体的な特徴と今後のデータ拡充について 3 ・学会等名 第1回請用油コーバス科研成果発表会「『請用論的分析のための1000人自然会話コーバス』構築の超盲と活用法」 4 ・発表年 2019年 1 ・発表者名 Yuka Shigenitsu 2 ・発表標題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 ・学会等名 16th International Pragnatics Association (国際学会) 4 ・発表年 2020年 1 ・発表者名 Yuka Shigenitsu 2 ・発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 ・学会等名 大学完體教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 ・発表年 2019年 1 ・発表者名 大台演奏,岩田祐子,大塚容子 2 ・発表程題 | 1.発表者名 宇佐美まゆみ、山崎誠 |
|---|--|
| 『BTSJ自然会話コーバス』の全体的な特徴と今後のデータ拡充について 3 ・学会等名 第1回請用油コーバス科研成果発表を「『請用論的分析のための1000人自然会話コーバス』構築の趣旨と活用法」 4 ・発表年 2019年 1 ・発表者名 Yuka Shigenitsu 2 ・発表標題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 ・学会等名 16th International Pragnatics Association (国際学会) 4 ・発表年 2020年 1 ・発表者名 Yuka Shigenitsu 2 ・発表構題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 ・学会等名 大学完體教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 ・発表年 2019年 1 ・発表者名 大台演奏,岩田祐子,大塚容子 2 ・発表種題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 ・学会等名 系の回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 ・発表年 | |
| 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表措題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 16th International Pragmatics Association(国際学会) 4 . 聚表年 2020年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表構題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学系譜教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大学系譜教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 2 . 発表者名 スト学系譜教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 3 . 学会等名 大学系譜教育学会国際子会(国際学会) 4 . 発表年 第9回回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | 2.発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』の全体的な特徴と今後のデータ拡充について |
| 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表措題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 16th International Pragmatics Association(国際学会) 4 . 聚表年 2020年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表構題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学系譜教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大学系譜教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 2 . 発表者名 スト学系譜教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 3 . 学会等名 大学系譜教育学会国際子会(国際学会) 4 . 発表年 第9回回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | 2. 兴 人然存 |
| 1. 発表者名 Yuka Shigemitsu 2. 発表構題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3. 学会等名 16th International Pragmatics Association (国際学会) 4. 発表年 2020年 1. 発表者名 Yuka Shigemitsu 2. 発表構題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3. 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会議演会(招待講演) 4. 発表年 2019年 1. 発表者名 大台解美、岩田祐子、大塚容子 2. 発表構題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3. 学会等名 第99回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4. 発表年 | |
| 2. 発表標題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3. 学会等名 16th International Pragmatics Association (国際学会) 4. 発表有名 Yuka Shigemitsu 2. 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3. 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4. 発表有名 大公乘美、岩田祐子、大塚容子 1. 発表者名 大谷森美、岩田祐子、大塚容子 2. 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3. 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4. 発表年 | 4 . 発表年 2019年 |
| 2. 発表標題 An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3. 学会等名 16th International Pragmatics Association (国際学会) 4. 発表有名 Yuka Shigemitsu 2. 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3. 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4. 発表有名 大公乘美、岩田祐子、大塚容子 1. 発表者名 大谷森美、岩田祐子、大塚容子 2. 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3. 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4. 発表年 | 1.発表者名 |
| An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 16th International Pragnatics Association (国際学会) 4 . 発表年 2020年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会 (招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第69回大学英語教育学会国際大会 (国際学会) 4 . 発表年 | |
| 3 . 学会等名 16th International Pragmatics Association (国際学会) 4 . 発表年 2020年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | 2.発表標題 |
| 16th International Pragmatics Association (国際学会) 4 . 発表年 2020年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会 (招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会 (国際学会) 4 . 発表年 | An analysis of social talk in ELF interaction between Japanese and Indian people |
| 16th International Pragmatics Association (国際学会) 4 . 発表年 2020年 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会 (招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会 (国際学会) 4 . 発表年 | 3. 学会等夕 |
| 1 . 発表者名 Yuka Shigemitsu 2 . 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大合麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | 16th International Pragmatics Association (国際学会) |
| Yuka Shigemitsu 2 . 発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美 , 岩田祐子 , 大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み: 英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | |
| 2.発表標題 Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3.学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4.発表年 2019年 1.発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2.発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3.学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4.発表年 | 1.発表者名 |
| Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | Yuka Shigemitsu |
| 3 . 学会等名 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | 2.発表標題 |
| 大学英語教育学会 ELF研究会講演会(招待講演) 4. 発表年 2019年 1. 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2. 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3. 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4. 発表年 | Clarification requests in ELF interaction between Japanese and Indian people |
| 4 . 発表年 2019年 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | 3.学会等名 |
| 1 . 発表者名 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2 . 発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4 . 発表年 | |
| 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2.発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3.学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4.発表年 | |
| 大谷麻美,岩田祐子,大塚容子 2.発表標題 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3.学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4.発表年 | 1 |
| 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3.学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4.発表年 | |
| 英語インタラクション能力のための指導の試み:英語会話に積極的に参加できる学生を育てるために 3.学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4.発表年 | 2.発表標題 |
| 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) 4.発表年 | |
| | 3 . 学会等名 第59回大学英語教育学会国際大会(国際学会) |
| | 4.発表年 2020年 |
| | |

| 1.発表者名 大塚容子 |
|---|
| |
| 2 . 発表標題 小学生と成人の会話の収集と今後の研究の可能性 |
| 3.学会等名 |
| 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1.発表者名 山崎誠,宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』の形態素解析の ための補助ツールの開発について |
| 3.学会等名 |
| 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1.発表者名 山崎誠 |
| 0 7X-14EPE |
| 2 . 発表標題 『BTSJ 日本語自然会話コーパス2018年版』における母語話者と学習者の語彙的比較 |
| 3 . 学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1.発表者名 石川慎一郎 |
| 2 . 発表標題 『BTSJ自然会話コーパス』を用いた 話者属性研究の方法について 男女大学生の文末詞使用を例に |
| 3 . 学会等名 第1回語用論コーパス科研成果発表会「『語用論的分析のための1000人自然会話コーパス』構築の趣旨と活用法」 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| |
| |

| 1.発表者名 永井望,宮本友樹,片上大輔 |
|---|
| 2.発表標題 Seq2seqモデルを用いた文末表現の異なる対話システムの評価 |
| 3 . 学会等名 FSSシンポジウム2019 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 総合的会話分析による研究 - BTSJ日本語自然会話コーパスを例に - |
| 3.学会等名 2018年日本語教育国際研究大会(招待講演)(国際学会) |
| 4.発表年 2018年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2.発表標題 談話研究と言語教育 |
| 3.学会等名 2018年日本語教育国際研究大会(招待講演)(国際学会) |
| 4.発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ・山崎誠 |
| 2 . 発表標題 自然会話の分析がなぜ平和のための対話教育につながるのか? 自然会話コーパスの分析から言えること |
| 3.学会等名 2018年日本語教育国際研究大会(国際学会) |
| 4 . 発表年 2018年 |
| |

| 現象性語 | |
|--|---|
| Quantitative Characteristics of the BTSJ Japanese Natural Conversation Corpus (8TSJ-Corpus) ver. 2018: focussing on the differences of the use of politic forms according to sub-groups. 3 . 学会等名 International Quantitative Linguistics Conference (QUALICO 2018) (国際学会) 4 . 景表作 2018年 1 . 景表名 Mayurui Usami 2 . 発表相題 How do age and gender factors influence on politicness strategies in Japanese conversation between newly acquainted people? 3 . 学会等名 the 11th International Conference on Im/Politicness (国際学会) 4 . 录表年 Mayurui Usami 2 . 張表標題 Persuasion and confortableness: From the viewpoint of Discourse Politicness Theory, The logics of persuasion 3 . 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Weeting at University of Palermo (国際学会) 4 . 录表年 2018年 1 . 発表者名 学校美表やみ 2 . 張表報題 会話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがボライトなの? 一時ISJ自然会話コーパスの分析とその教材化一 | |
| 4. 発表年 2018年 1. 発表者名 Mayumi Usami 2. 発表機題 How do age and gender factors influence on politeness strategies in Japanese conversation between newly acquainted people? 3. 学会等名 the 11th International Conference on Im/Politeness (国際学会) 4. 発表作 2018年 2. 発表機能 How do age and gender factors influence on politeness (国際学会) 4. 発表作 2018年 1. 発表者名 Mayumi Usami 2. 発表機器 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3. 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4. 発表作 2018年 1. 発表者名 S表表者名 S表表表表表表表表表表 | Quantitative Characteristics of the BTSJ Japanese Natural Conversation Corpus (BTSJ-Corpus) ver. 2018: focussing on the |
| 1. 発表者名 Mayumi Usani 2. 発表標題 How do age and gender factors influence on politeness strategies in Japanese conversation between newly acquainted people? 3. 学会等名 the 11th International Conference on Im/Politeness (国際学会) 4. 発表者名 Mayumi Usani 2. 発表標題 Persuasion and confortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3. 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4. 発表年 2018年 1. 発表者名 学佐美求ゆみ 2. 発表標題 全話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? ーBTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化ー 3. 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4. 発表年 | International Quantitative Linguistics Conference (QUALICO 2018)(国際学会) |
| Mayumi Usami How do age and gender factors influence on politeness strategies in Japanese conversation between newly acquainted people? 3 . 学会等名 the 11th International Conference on Im/Politeness (国際学会) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 Mayumi Usami 2 . 発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3 . 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4 . 発表在 字性美まゆみ 2 . 発表標題 会話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがボライトなの? —BTSJ自然会話コーバスの分析とその教材化— 3 . 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | |
| How do age and gender factors influence on politeness strategies in Japanese conversation between newly acquainted people? 3. 学会等名 the 11th International Conference on Im/Politeness (国際学会) 4. 発表年 2018年 1. 発表者名 Mayumi Usami 2. 発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3. 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4. 発表者名 字佐美まゆみ 2. 発表構題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? ーBTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化ー 3. 学会等名 国立国語研究所オープンパウス2018 4. 発表年 | |
| the 11th International Conference on Im/Politeness (国際学会) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 Mayumi Usami 2 . 発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3 . 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ 2 . 発表標題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? —BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化— 3 . 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | |
| 2.発表標題 会話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがボライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化ー 3.学会等名 国立国語研究所オーブンハウス2018 4.発表年 | |
| Mayumi Usami 2 . 発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3 . 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo(国際学会) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ 2 . 発表標題 会話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがボライトなの? -BTSJ自然会話コーバスの分析とその教材化ー 3 . 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | |
| Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3 . 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 字佐美まゆみ 2 . 発表標題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化ー 3 . 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | |
| Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4. 発表年 2018年 1. 発表者名 宇佐美まゆみ 2. 発表標題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化ー 3. 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 | 2018年 1 . 発表者名 |
| 2018年 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ 2 . 発表標題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化- 3 . 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | 2018年 1 . 発表者名 Mayumi Usami 2 . 発表標題 |
| 宇佐美まゆみ 2 . 発表標題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化- 3 . 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | 1.発表者名 Mayumi Usami 2.発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3.学会等名 |
| 会話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがポライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化-3.学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 | 1.発表者名 Mayumi Usami 2.発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3.学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo(国際学会) 4.発表年 |
| 国立国語研究所オープンハウス2018 4 . 発表年 | 1.発表者名 Mayumi Usami 2.発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3.学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo(国際学会) 4.発表年 2018年 |
| | 2. 発表標題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3. 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo(国際学会) 4. 発表年 2018年 1. 発表者名 宇佐美まゆみ 2. 発表標題 会話から人間を探る!悪態と慇懃無礼、どっちがボライトなの? —BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化— |
| | 2. 発表構題 Persuasion and comfortableness: From the viewpoint of Discourse Politeness Theory, The logics of persuasion 3. 学会等名 Between anthropology and rhetoric, International Meeting at University of Palermo (国際学会) 4. 発表年 2018年 1. 発表者名 字佐美まゆみ 2. 発表構題 会話から人間を探る! 悪態と慇懃無礼、どっちがボライトなの? -BTSJ自然会話コーパスの分析とその教材化ー 3. 学会等名 国立国語研究所オープンハウス2018 |

| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ・張洋子・小川都 |
|---|
| |
| 2.発表標題 『BTSJ日本語自然会話コーパス』の特徴と活用法 |
| 3.学会等名 |
| NINJALシンポジウム 「データに基づく日本語研究」 |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2.発表標題 |
| 自然会話分析とディスコース・ポライトネス理論の展開の可能性 |
| 3 . 学会等名 言語コミュニケーション・フォーラム(関西学院大学)(招待講演) |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
| |
| 2 . 発表標題 ポライトネス理論とAI |
| 3 . 学会等名 |
| 国立国語研究所 日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明 第3回会話・談話研究シンポジウム |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 重光由加 |
| |
| 2 . 発表標題 話し相手としてのAI 日本語を話すAIとのコミュニケーションに何を求めるか |
| 3.学会等名 |
| 国立国語研究所 日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明 第3回会話・談話研究シンポジウム |
| 4 . 発表年 2018年 |
| |
| |

| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
|---|
| |
| 2 . 発表標題 第8~10回 BTSJ活用方法講習会 |
| 3.学会等名 |
| 言語社会心理学研究会 4.発表年 |
| 2018年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2.発表標題 |
| 自然会話コーパスへの言語社会心理学的アプローチ |
| 3.学会等名 |
| 言語社会心理学研究会 4.発表年 |
| 2018年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2.発表標題 |
| BTSJ日本語自然会話コーパスとは? |
| 3 . 学会等名 平成30年度 国立国語研究所日本語教師セミナー (海外) |
| 4.発表年 |
| 2018年 1 . 発表者名 |
| 宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 BTSJ日本語自然会話コーパスとNCRB (Natural Conversation Resource Bank) |
| Production (natural conversation resource bank) |
| 3 . 学会等名 平成30年度 国立国語研究所日本語教師セミナー (海外) |
| 4 . 発表年 2018年 |
| |
| |

| 1.発表者名 小沢一仁、重光由加 |
|--|
| 2 . 発表標題 授業現場における質問と発問の違い - 語用論と心理学の視点から - |
| 3.学会等名 教師教育学会 |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 Tomoki Miyamoto, Daisuke Katagami, Yuka Shigemitsu, Mayumi Usami, Takahiro Tanaka, Hitoshi Kanamori, Yuki Yoshihara, and Kazuhiro Fujikake |
| 2. 発表標題 Toward a construction of the politeness theory adaptable to HAI research: On going evaluation of conversational agents considering gender bias |
| 3 . 学会等名 NGHA12018 (国際学会) |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 宮本 友樹、片上 大輔、田中 貴紘、金森 等、吉原 佑器、藤掛 和広、重光 由加、宇佐美 まゆみ |
| 2 . 発表標題 あなたはどっち派?ユーザ属性に応じて受容性の高いポライトネス方略を選択する運転支援エージェント |
| 3 . 学会等名 HAIシンポジウム2018 |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1.発表者名 重光由加 |
| 2 . 発表標題 聞き手による会話の修復とラポール: 談話分析的アプローチによるELF 接触場面のケース・スタディ |
| 3 . 学会等名 言語処理学会第25回年次大会 |
| 4.発表年 2019年 |
| |

| 1 . 発表者名 伊藤敏、大塚容子、鷲野嘉英 |
|--|
| 2 . 発表標題 動画から顔の動きを抽出する試み 対話解析・修学行動評価への適用を目指して |
| 3 . 学会等名 教育システム情報学会第43回全国大会 |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 Itou Satoshi, Otsuka Yoko, Washino Kaei and Inoue Shoshi |
| 2 . 発表標題 Extraction of Human Behabior Infomation from Movie with Camera by Image Analysis |
| 3 . 学会等名 Innovation, Mandalay by IEEE(国際学会) |
| 4 . 発表年 2018年 |
| 1 . 発表者名 大塚容子、宇佐美まゆみ、伊藤敏 |
| 2 . 発表標題 動画からのうなずきの半自動検出と談話研究への応用 |
| 3 . 学会等名 言語処理学会第25回年次大会 |
| 4 . 発表年 2019年 |
| 1.発表者名 宇佐美まゆみ |
| 2 . 発表標題 『自然会話リソースパンク (NCRB)完成版 』と『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年NCRB連動完成版』の連携の趣旨と特徴 他のオンライン日本語教材とどこが違うのか?」 |
| 3. 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』と『自然会話リソースバンク (NCRB) 』の新展開 (その多様な活用方法)」 |
| 4.発表年 2023年 |

| 1 . 発表者名 宇佐美まゆみ |
|---|
| |
| 2.発表標題 |
| 2 . 光な標題 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』の特徴と新しい使い方について |
| |
| 3.学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』と『自然会話リソースバンク (NCRB) 』の新展開 (その多様な活用方法)」 |
| 4 . 発表年 2023年 |
| |
| 1.発表者名 山崎誠 |
| 2 . 発表標題 『RTS 11000 & 日本語白然会話コーパフ(2023年3日NCPR連動会成版)。の形態表解析について |
| 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』の形態素解析について |
| 3.学会等名 |
| 3 . 子云寺石 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』と『自然会話リソースバンク (NCRB) 』の新展開 (その多様な活 用方法)」 |
| 4.発表年 |
| 2023年 |
| 1 . 発表者名 大塚 容子 ・重光由加 |
| 2. 改字 抽屉 |
| 2 . 発表標題 JFL環境における日本語学習者の「日本語らしさ」ーインドの授業のデータ分析よりー |
| 3.学会等名 |
| 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス (2023年3月NCRB連動完成版)』と『自然会話リソースバンク (NCRB) 』の新展開 (その多様な活用方法)」 |
| 4 . 発表年 2023年 |
| 1.発表者名 |
| 松本真由美 |
| |
| 2.発表標題 NYUの中上級の授業におけるNCRBの実践 |
| |
| 3 . 学会等名 『BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)』と『自然会話リソースバンク (NCRB) 』の新展開 (その多様な活 用方法)」 |
| 4 . 発表年 2023年 |
| |
| |
| |
| |

| 図書〕 計4件 | |
|---|------------------|
| . 著者名 宇佐美 まゆみ (編) | 4 . 発行年 2020年 |
| | 2020 1 |
| . 出版社 | 5.総ページ数 |
| くろしお出版 | 282 |
| . 書名 日本語の自然会話分析 - BTSJコーパスからみたコミュニケーションの解明 | |
| | |
| | |
| . 著者名 | 4.発行年 |
| 宇佐美まゆみ(編) | 2020年 |
| . 出版社 | 5.総ページ数 |
| ひつじ書房 | 396 |
| . 書名 自然会話分析への語用論的アプローチ-BTSJコーパスを利用して - | |
| | |
| | |
| . 著者名 Yoshiyuki Asahi, Mayumi Usami, and Fumio Inoue(eds.) | 4.発行年 2022年 |
| Toomyaki Adam, mayami dodam, and ramio mode (dad.) | 2022- |
| . 出版社 | 5.総ページ数 |
| De Gruyter Mouton | 669 |
| .書名 Handbook of Japanese Sociolinguistics | |
| | |
| | |
| . 著者名 鎌田 修 (監修代表),鎌田 修 (編),由井 紀久子 (編),池田 隆介 (編) | 4.発行年 2022年 |

5.総ページ数 465 2 . 出版社 ひつじ書房 3 . 書名 日本語プロフィシェンシー研究の広がり

〔産業財産権〕

(その供)

| しての他」 |
|--|
| BTSJ1000人日本語自然会話コーパス(2023年3月NCRB連動完成版)について |
| https://isplad.jp/lab/btsj_corpus_2023/ |
| 宇佐美まゆみ研究室 |
| https://isplad.jp/lab/ |
| 宇佐美まゆみ研究室 研究業績 |
| https://isplad.jp/lab/research/ |
| 日本語学習者の日本語使用の解明 |
| https://isplad.jp/ |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

| 6 | ,研究組織 | | | | |
|-------|---------------------------------|----------------------------------|----|--|--|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 | | |
| 研究分担者 | 山崎 誠 (Yamazaki Makoto) | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授 | | | |
| | (30182489) | (62618) | | | |
| 研究分担者 | 大塚 容子 (Otsuka Yoko) | 岐阜聖徳学園大学・外国語学部・教授 | | | |
| | (10257545) | (33704) | | | |
| 研究分担者 | 重光 由加 (Shigemitsu Yuka) | 東京工芸大学・工学部・教授 | | | |
| | (80178780) | (32708) | | | |
| 研究分担者 | 石川 慎一郎 (Ishikawa shinichiro) | 神戸大学・大学教育推進機構・教授 | | | |
| | (90320994) | (14501) | | | |
| 研究分担者 | 片上 大輔 (Katagami Daisuke) | 東京工芸大学・工学部・教授 (32708) | | | |
| | (90345372) | (32/08) | | | |

6.研究組織(つづき)

| | . (対九組織 (ノノさ) | | | | |
|-------|---------------------------|--|----------------|--|--|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 | | |
| 研究分担者 | 小川 都 (Ogawa Miyako) | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・プロジェクト非常勤研究員 | 削除:2022年6月30日 | | |
| | (00824822) | (62618) | | | |
| 研究分担者 | 松井 智子 (Matsui Tomoko) | 東京学芸大学・国際教育センター・教授 | 削除:2018年12月25日 | | |
| | (20296792) | (12604) | | | |

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 備考 | |
|-------|---------------------------|----------------------------------|--|
| | 母育新 | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) 西安外国語大学 | |
| 研究協力者 | (Wu Yuxin) | | |
| | 李 宇霞 | 広東外語外貿大学 | |
| 研究協力者 | (Li Yuxia) | | |
| | 李 摇 | 西安師範大学 | |
| 研究協力者 | | | |
| | 松本 真由美 | ニューヨーク大学 | |
| 研究協力者 | (Matsumoto Mayumi) | | |
| | 南雅彦 | サンフランシスコ州立大学 | |
| 研究協力者 | | | |

6.研究組織(つづき)

| | · MISONITING () > C) | | | | |
|---|---------------------------|-----------------------|----|--|--|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 | | |
| | 小川 都 | 専修大学 | | | |
| 研 | (Ogawa Miyako) | | | | |
| | | | | | |

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---------|----------|--------------|--------|--|
| 中国 | 西安外国語大学 | 広東外語外貿大学 | 西安師範大学 | |
| 米国 | ニューヨーク大学 | サンフランシスコ州立大学 | | |